

令和4年度
No. 4
11月22日

全連小速報

全国連合小学校長会事務局
東京都港区西新橋1-22-14
電話 03-3501-9288
発行人 会長 大字弘一郎
編集人 広報部長 横溝 宇人

常に自らを磨き、志高く、学び続け、挑戦し続ける校長でしよう

—第74回全連小研究協議会島根大会を 松江会場と東京会場とをオンラインで結んで開催—

第74回全国連合小学校長会研究協議会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、10月14日(金)の1日開催とし、松江会場と東京会場をオンラインで結ぶとともに全国に配信するという新しい方法で開催した。また、大会前日の10月13日(木)には、第242回理事会をKKRホテル東京で開催した。

次年度の全連小75周年記念式典と併わせて行う第75回研究協議会東京大会は、参集しての開催を基本とすることが確認された。

大会主題

自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進
～ふるさとを学びの原点に 主体的・協働的に学び合い 豊かな未来社会を創る子どもの育成～

開会式

- 1 開会のことば
- 2 国歌斉唱
- 3 あいさつ 大会会長 大字弘一郎
大会実行委員長 越野 和胤
- 4 祝辞 文部科学大臣 永岡桂子様
(代読 文部科学省大臣官房審議官 安彦広斉様)
島根県教育委員会教育長 野津建二様
松江市教育委員会教育長 藤原亮彦様

会長あいさつ(要旨)

大会会長 大字弘一郎



第74回全国連合小学校長会研究協議会島根大会の開催にあたり、ご多用の中、文部科学大臣代理 文部科学省大臣官房審議官 安彦広斉様、島根県教育委員会教育長野津建二様、松江市教育委員会教育長 藤原亮彦様のご臨席を賜り、心より感謝申し

上げる。

日本は広く、様々な特色や優れた実践がある。校長が全連小の活動を通して、都道府県を越え、顔と顔とをつき合わせて学び合う意義は計り知れない。そして、そこで得た学びを持ち帰り、各地区校長会のより一層の発展や学校経営の充実につなげることが、本会の極めて重要な目的である。その中でも、全連小全国大会は、私たち小学校長の最高、最大の学びの場である。

令和4年度の全連小島根大会は、3年ぶりの参集による全国大会とすべく準備を進めてきたが、新型コロナウイルス感染症の拡大と長期化により、開催方法を根本から見直した。関係各位のご尽力に改めて感謝を申し上げる。

本大会では、「ふるさとを学びの原点に 主体的・協働的に学び合い 豊かな未来社会を創



る子どもの育成」の副主題のもと、これまでの研究成果を受け継ぎ、大会主題のさらなる追求を目指すとともに、時代に対応した学校経営を推進する責任者である校長の果たすべき役割と指導性について究明していくことになる。その研究成果が、今後の小学校教育に大きく貢献することを期待している。

これからの社会は、これまでとは非連続的と言えるほど劇的に変わる状況にある。教育を巡る状況も変化のスピードを増している。校長は、子どもたちの多様化、情報化の加速度的進展といった社会的変化に対応するだけでなく、自らが変化の先頭に立ち、新たな価値を生み出していく気概をもつ必要がある。そして、小学校教育を預かる自負とその職責の重大さを自覚し、全国の小学校教育のさらなる発展に全力を注ぎ、国民の期待に応えなければならない。

教育は、未来を創る営みである。なんとやりがいのある、魅力的な仕事だろうか。学校教育を牽引するのは、現場のリーダーである私たち校長である。常に自らを磨き、志高く、学び続け、挑戦し続けていこう。

結びに、本大会の開催にご尽力された越野島根県小学校長会長兼大会実行委員長をはじめ、関係の皆様深く感謝を申し上げますとともに、会員の皆様のご健勝とご活躍を祈念して挨拶とする。

実行委員長あいさつ（要旨）

大会実行委員長 越野和胤



参加型による校長のつながりを強める場としての大会を実施することができず、会員の皆様にはお詫び申し上げます。

さて、現代は、知識基盤社会への新たな進展、グローバル化、情報化の進行等により、先行きが不透明で予測困難な時代と言われている。子どもたちは、現代社会をたくましく生きぬいていくことができる資質・能力が求められている。それは、生涯に渡って必要とされる力である。生きて働く知識・技能や未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等を、子どもたちにどのように身に付けさせるかが実践的課題である。

ところで、本県には美しく豊かな自然や脈々と受け継がれてきた固有の歴史や文化があり、地域を支える人材が多数いることから、地域の教育資源（ひと・もの・こと）を生かしたふる

さと教育を推進している。子どもたちは、学習活動を通して、地域の人材などについて認識を深め、ふるさとへの愛着や誇りをさらに高めていくとともに、地域に貢献しようとする意欲を喚起している。

このことを踏まえ、島根大会では、副主題を「ふるさとを学びの原点に 主体的・協働的に学び合い 豊かな未来社会を創る子どもの育成」とした。13分科会では、より一層の情報と実践を共有し、校長の果たすべき役割と指導性について研究を進め、「令和の日本型学校教育」の在り方について理解を深めることが必要である。

また、大会要録の全会員への配付や研究協議会のオンデマンド配信により、全ての校長が学ぶことができる場を設けた。これからの学校経営の一助になると考える。

最後に、島根大会の開催に当たり、ご指導とご助言をいただいた全ての関係者の皆様に厚く御礼を申し上げ挨拶とする。

文部科学大臣祝辞代読（要旨）

文部科学大臣官房審議官 安彦広斉様

第74回全国連合小学校長会研究協議会島根大会が開催されることに心よりお喜び申し上げます。はじめに、新型コロナウイルス感染症の収束しない中、子どもたちの学びの保障と感染症予防を両立させている先生方のご尽力に対して感謝申し上げます。

さて、学習指導要領の全面实施から3年目となるが、子どもたちや学校現場を取り巻く環境は、日々大きく変化しており、全ての子どもたちの可能性を引き出す「令和の日本型学校教育」を実践するために、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実に向けて取組を続けていくことが重要である。

文部科学省では、次世代の学校教育の在り方について検討するため、中央教育審議会初等中等教育分科会に「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた学校教育の在り方に関する特別部会」を設置して検討を進め、10月3日には、この特別部会の下に「義務教育の在り方ワーキンググループ」を設置した。引き続き、小学校教育の一層の充実に向けて必要な取組を進めていく。

本大会の全国の優れた教育実践の発表や協議を通して、さらに新しい価値を生み出し、子どもたちの資質・能力の育成につながっていくことと存じる。

島根県教育委員会教育長祝辞（要旨）

島根県教育委員会教育長 野津建二様

第74回全国連合小学校長会島根大会が多くの関係者のご尽力により開催方法を工夫され、東京と島根をリモートで結び、全国に配信し、ここ「ご縁の国しまね」で開催されることを心からお祝い申し上げます。

全国的に10月を「神無月」と言うが、島根県では「神在月（かみありづき）」と呼ぶ。毎年この時期には神在祭が行われ、全国の神々が集まり「神議り（かむはかり）」行われると言われている。この時期に全国の校長先生とつながることができることは大変喜ばしく歓迎する。

さて、本県では恵まれた自然環境や面々と受け継がれた歴史文化、大切に守り育ててきた心の豊かさや環境への配慮、そして勤勉さなど、島根ならではの強みを生かして活力ある地域づくりに取り組んでいる。

島根県教育委員会では島根の子どもたちが自らの将来に向けて幸福で主体的な生き方を実現できるよう、また、よりよい社会の担い手となっていけるよう、教育の魅力化を進めている。

一方、未だ終息しない新型コロナウイルスにより、教育界においてもこれまでの価値観を問い直すことが求められた。また、社会の変化に伴い、学校を取り巻く環境が大きく変わりつつあり、多様化する学校経営において校長のマネジメントはますます重要になってくる。

本大会が「自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」を研究主題に開催されることは、今後の教育の大きな方向性を示す「神議り」になることと思う。全連小の発展と本大会の成功をお祈りし、お祝いの言葉とする。

松江市教育委員会教育長祝辞（要旨）

松江市教育委員会教育長 藤原亮彦様

第74回全国連合小学校長会島根大会が松江会場と東京会場をオンラインで結び、盛大に開催されることを心よりお祝い申し上げます。

皆様には、3年にも及ぶコロナ禍による制約が多い中で、小学校教育の充実と発展にご尽力いただいていることに感謝申し上げます。

本大会では全国各地から報告される実践をもとに有意義な研修が展開され、校長の果たすべき役割や指導性の追求に資する機会となることを祈念している。

松江市においては、本年3月、基本理念とし

て「DREAMS from MATSUE ～ふるさと松江から、夢を実現し未来を拓く～」を掲げ、その実現のための重点的な取組を示した「松江教育大綱」を策定した。この大綱のもと、本市の豊かな地域資源を活かし、一人一人が夢の実現に向けて自ら考え行動する力をもつとともに、皆が多様性を尊重し、お互いに個性を生かしながら、共に支え合って未来を切り拓いていく市民の育成を目指している。松江市教育委員会では、子ども一人一人の健やかな育ちと確かな学びのために、校長会の皆様と密接な連携を図りながら小学校教育のさらなる充実・発展に努めて参りたい。

結びに、本大会の開催に当たりご尽力された関係の皆様にご敬意を表するとともに、全連小並びに島根県小学校長会の一層の発展を祈念しお祝いの言葉とする。

文部科学省講話（要旨）

文部科学大臣官房審議官 安彦広斉様

1 学校における新型コロナウイルス感染症対策について



- ・感染症対策として、特に換気は効果的である。冬への対策を講じてもらいたい。
- ・ワクチン接種は、本人や保護者の判断に委ねる。保護者等が情報を得られるようにしている。

・学級閉鎖等について、学校で発生した場合のガイドラインを参考にしてもらいたい。

・学校の感染拡大をできるだけ低減させる。必要経費を予算に盛り込んでいく。

2 学習指導要領、「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」（中央教育審議会答申）について

・「義務教育の在り方ワーキンググループ」が始まる。現場の取組に必要な支援を検討する。

・個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のために進めていく。一人一台端末の整備は進んだので、サポート体制について議論を進めている。

・主体的・対話的な深い学び、思考力・判断力・表現力、学びに向かう人間性を社会に生かすことが大事である。

・「総則」を読むと教科との向き合い方が分かる。時々「総則」に戻ってほしい。

3 幼児教育と小学校教育の架け橋について

- ・小学校低学年と幼稚園の教員が互いの苦勞を分かり合うことで教育方法の改善ができると考える。
- ・子どものパワーや幼稚園での学びを小学校が受け取り、低学年の教育を充実させることが小学校3年生以降の教育の充実につながる。
- 4 GIGAスクール構想の推進について
 - ・子どもたちは一つのプログラミングを理解するといろいろな発想を広げる。様々な教科等で端末を使って学習する機会を設けていくとたくましい子どもの育成につながる。
- 5 小学校における35人学級の計画的な整備と高学年の教科担任制の推進について
 - ・教科担任制の推進のために必要な人員確保をしていく。
- 6 教師の資質・能力の向上等について
 - ・教員免許更新制度の廃止により資質・能力の低下が懸念されている。新しい研修制度の整備が求められる。研修履歴記録システムを充実させたい。
- 7 学校における働き方改革について
 - ・学校をサポートする機能、学校がやらなくてもよいことを地域が担うような形をつくり、学校が関わらずに様々な体験活動ができるようにしたい。
- 8 特別支援教育について
 - ・インクルーシブということで特別支援学級がある。様々な特別支援にどう向き合うかこれから取り組んでいく。
- 9 いじめ・不登校支援・児童虐待対応等について
 - ・いじめが少し減少しているがいじめが起らなくなったわけではない。SCやSSWの配置の充実を図っていく。不登校は逆に増加傾向である。

全 体 会

- | | |
|-----------------|--------|
| 1 日程説明 | 2 本部報告 |
| 3 大会主題・研究課題趣旨説明 | |

本部報告（要旨）

全連小対策部長 荒川元邦

5月26日に第241回理事会を行い、副会長・常任理事及び監事の新たな候補者が承認された。第74回総会議案について原案通りの提案が了承され、全連小75周年記念誌の頒布についても承認された。

5月27日の第74回総会・研修会は、3年ぶりに参集しての開催となり、配信も行った。文部

科学省大臣官房審議官 舘上孝様をはじめ来賓より祝辞をいただき、5つの議案が承認された。午後の研修では、文部科学省初等中等教育局主任視学官宮崎活志様の講演、文部科学省各課長等による行政説明が行われた。

7月11日、正副会長・常任理事が、文部科学省・財務省・総務省を訪れ、各大臣・副大臣・政務官・省内各課長に対し、「小学校教育の充実に関する文教施策並びに予算についての要望書」を提出した。

7月11日、被災3県小学校長会長との合同連絡会を行い、岩手県・宮城県・福島県各会長から復興の状況についての報告があった。

7月12日、小学校長会長連絡協議会は、7点の報告後、アイロボットジャパン合同会社代表取締役社長 挽野元様に講演いただいた。グループ協議では、非常に活発に情報交換が行われた。

大会主題・研究課題趣旨説明

大会研究部長 丹羽 隆

令和2年度からの研究主題のもと、これまでの成果を引き継ぎながら研究を推進してきた。副主題設定の背景として、これからの社会は予測できないほどの変化が起きると言われていることがあげられる。社会の大きな変化などにより対応すべき課題が多岐に渡る。

予測困難な未来社会を子どもたちが豊かに健やかに生き抜いていくためには、主体的な挑戦や他者との協働、新たな価値の創造等が不可欠である。その原動力として、故郷の自然・歴史・文化を学びの原点とし、人とのつながりの中で学び合い、自らの人生や社会をよりよくしようとする思いや、持続可能で豊かな未来社会に貢献していこうとする意欲の育成が大切である。

島根は恵まれた資産や魅力を教育資源として活用したふるさと教育を推進し、人々や地域への愛着や誇りとともに自己存在感、自己肯定感を子どもたちに育んできた。それらを学びの原点として、地域社会や日本・世界の未来を創造する心豊かな人を育成することを目指している。

校長は、子どもたちが育った地域との確かな絆と学びを原点にもち、主体的に課題解決に取り組み、他者と力を合わせて解決していく力と、社会の中でともに生きる実践的な態度を育み、広い視野に立って地域社会や世界に貢献する人づくりを目指した学校経営を推進していかなければならないと考える。我々校長が臆することなく柔軟に対応し挑戦する姿勢がカギを握る。皆様のお力添えで本大会の充実をお願いする。

◆分科会の研究課題及び研究の視点

領域	分科会	研究課題	視 点 ①全国ブロック ②中国ブロック
I 学校経営	1 経営ビジョン	創意と活力に満ちた学校経営ビジョンの策定	①未来を見据えた魅力ある学校経営ビジョンの策定 ②学校経営ビジョンに基づく創意と活力に満ちた学校経営の推進
	2 組織・運営	学校経営ビジョンの実現に向けた活力ある組織づくりと運営	①学校経営ビジョンの実現に向けた活力ある組織づくり ②組織を活性化させるための具体的方策の推進
	3 評価・改善	学校教育の充実を図るための評価・改善	①学校経営の組織的かつ継続的な改善に向けた学校評価の充実 ②教職員の資質・能力の向上に向けた人事評価の工夫
II 教育課程	4 知性・創造性	知性・創造性を育むカリキュラム・マネジメントの推進	①主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善の推進 ②知性・創造性を育む教育課程の編成 実施・評価・改善
	5 豊かな人間性	豊かな人間性を育むカリキュラム・マネジメントの推進	①豊かな心を育む道德教育の推進 ②よりよい社会を創る人権教育の推進
	6 健やかな体	健やかな体を育むカリキュラム・マネジメントの推進	①生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現する資質や能力を育てる教育活動の推進 ②健康で安全な生活を営む実践力を育てる教育活動の推進
III 指導・育成	7 研究・研修	学校の教育力を向上させる研究・研修の推進	①学び続ける教職員を目指し、資質・能力の向上を図る研究・研修体制の充実 ②「チーム学校」の運営意識をもたせる研修の推進
	8 リーダー育成	これからの学校経営を担うリーダーの育成	①学校教育への確かな展望をもち、優れた実践力と応用力のあるミドルリーダーの育成 ②社会の変化に主体的にかかわり、自ら学び続ける管理職人材の育成
IV 危機管理	9 学校安全	命を守る安全教育・防災教育の推進	①自ら判断し行動できる子どもを育てる安全教育・防災教育の推進 ②家庭や地域・関係機関との連携・協働を図った組織的・計画的な防災教育に関わる取組の推進
	10 危機対応	様々な危機への対応と未然防止の体制づくり	①いじめ・不登校等への適切な対応と体制づくり ②教職員の高い危機管理能力の育成と未然防止に向けた組織体制づくり
V 教育課題	11 社会形成能力	社会形成能力を育む教育活動の推進	①社会の発展に貢献する資質・能力・態度を育む教育活動の推進 ②地域に愛着をもち、よりよい社会の創造に貢献する力を育むキャリア教育の推進
	12 自立と共生	自立と共生の実現に向けた教育活動の推進	①子どもの自立や社会参加に向けた特別支援教育の推進 ②多様な他者と協働する資質・能力を育む教育の推進
	13 社会との連携・協働	家庭や地域等との連携・協働と学校段階等間の接続・連携の推進	①家庭や地域等と連携・協働を深め、創意ある教育活動を展開する学校づくりの推進 ②成長の連続性を生かした学校段階等間の接続・連携の推進

大会宣言

全国連合小学校長会は、結成以来、我が国の小学校教育の充実・発展のため、真摯に研究と実践を重ね、着実にその成果を上げてきた。

第72回京都大会から掲げてきた大会主題「自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」による三回目の研究大会となる本大会では、大会主題の実現を目指し、これまでの研究成果と課題を引き継ぎ、組織をあげ鋭意努力してきた。

これからの我が国では、デジタルトランスフォーメーションによる社会構造の変化や多極化などがこれまで以上に進行することが予想される。また、持続可能な社会の実現に向け、国際社会における役割の重要性を認識するとともに、世界的な平和や地球環境問題など、世界の動向にも注視していく必要がある。このような中、今後の社会の方向性として「自立」「協働」「創造」の三つの理念の実現に向けた生涯学習社会を構築することが求められている。教育においては、新しい時代に必要となる資質・能力を育成するため、家庭・地域と連携して、「社会に開かれた教育課程」の実現と検証を図り、効果的なカリキュラム・マネジメントを確立していくとともに、グローバルな幅広い視野で教育活動を創造していくことが重要である。また、今日的課題として、東日本大震災をはじめとする被災各地における教訓と取組を共有し、風評被害や風化防止対策を講じること、また今もなお続いている新型コロナウイルス感染症の対応として、各地域の状況を踏まえながら、子どもの健康安全の保持及び学力保障にも継続的に取り組んでいかなければならない。

こうした社会の変化や国の動向を注視しつつ、自立的に生き抜くために必要な「生きる力」をバランスよく確実に育むことが学校教育の責務である。併せて、未来社会を切り拓こうとする志をもち、他者と協働しながら学んだことを、社会の発展に役立てようとする力の育成が求められている。そのため、小学校教育においては、地域と協働して取り組む教育活動により育んできた地域への愛着と誇り・自己存在感や自己肯定感を学びの原点として、地域社会や日本の将来、世界の未来を創造する心豊かな子どもを育成することが重要である。

私たち校長は、島根大会における副主題「ふるさとを学びの原点に 主体的・協働的に学び合い 豊かな未来社会を創る子どもの育成」を基盤に据え、確かな計画と実行性をもって小学校教育の推進に全力を傾注し、国民の信託に応えようとするものである。

ここに、第74回全国連合小学校長会研究協議会の総意に基づき、次の決意を表明しその実現を期する。

記

- 一、自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進
- 一、ふるさとを学びの原点に 主体的・協働的に学び合い 豊かな未来社会を創る子どもの育成
- 一、「生きる力」の育成を目指した創意工夫ある教育課程の編成・実施・評価・改善
- 一、道徳教育を中核とし、命の尊厳を重視した心の教育の一層の充実
- 一、主体的に判断・行動し、命を守る子どもを育成する防災教育の推進
- 一、学校の自主性・自律性の確立と家庭・地域等との連携・協働による教育活動の充実
- 一、新型コロナウイルスの感染症対応を含めた安全で安心できる教育環境づくりの一層の推進
- 一、校長自らの研鑽と、教職員の資質・能力の向上を図る現職教育の充実
- 一、教育の質を向上させるための「学校における働き方改革」の推進

右、宣言する。

令和4年10月14日

第74回全国連合小学校長会研究協議会島根大会

閉会式

- 1 あいさつ
大会宣言文起草委員長 佐久由樹子
大会実行副委員長 三賀森卓司
東京大会実行委員長 平川 惣一
- 2 閉会のことば



◆鼎談

〈テーマ〉豊かな未来社会を創る子どもたちへ
～ふるさと 原点 創造～

本鼎談は、島根県に縁の深い3名の方をお迎えし、豊かな見識をもとに「ふるさと」「原点」「創造」の視点から未来社会を創る子どもたちへ、また、校長へのメッセージを語っていただいた。(10月17日から11月7日までオンデマンド配信)

〈鼎談者〉

加納美術館名誉館長 加納佳世子様
小泉八雲記念館館長 小泉 凡様
海士町役場人づくり特命担当 豊田庄吾様

第242回理事会 東京で開催

10月13日(水) 午後1時開会

会場 KKRホテル東京「孔雀」

全体進行 小正 庶務部長

1 開会のことば

平川 副会長

2 会長あいさつ

大字 会長

コロナが収まってきて学校も日常に戻りつつある。本校では、3年ぶりにおやじの会主催のデイキャンプを校庭で行い、充実した活動となった。私たちはやはり、これからも子どもの笑顔や成長のために大切なものを引き継いでいきたい。

さて、持続可能な小学校教育について話をする。令和4年度の教員採用選考の倍率は2.5倍であった。最高倍率の高知県は9.2倍であり、大変な努力をしている。最低は1.3倍であった。受験者の学生の8割が実家に近いという理由で選んでいる。東京都は、2.5倍であるが、地元の学生が少ないため、危機的水準である。大卒者の受験者は増加しているが、既卒者は3,000人以上減少している。今後は、ペーパーティーチャーをどう取り込むかが課題である。

文部科学省は教員採用選考を早期化するとも言っている。また、教育実習の実施時期の早期化についても考えられている。採用選考の改善に向けて校長会も協力していく所存である。

日本教育新聞のアンケート調査によると、「先生になりたいと思ったきっかけは何か」という問いに対して、「自分がお世話になった担任の先生に憧れたから。」という回答が多かった。校長が一人一人の教員を大事にして業務を改善し、教員が魅力的になっていけば、子どもが「あんな先生になってみたい」と思うはずである。私たち校長が教員を大事にして元気に働いてもらうことが、10年、20年後のよい先生をつくることになり、持続可能な教育につながっていくと考える。これからも学校が元気になるようにメッセージを発信していく。2日間よろしく願います。

3 前事務局長へ感謝状贈呈

内藤 信前事務局長へ大宇会長より感謝状が渡され、前事務局長からあいさつがあった。

4 報告

(1) 会務・事業・活動の概要 小正 庶務部長

(2) 会計 西山 会計部長

・基金管理状況 ・負担金納入状況

(3) 研究大会について

・第74回島根大会について 越野 島根県会長
開催方法変更の経緯及びリモートと参集とのハイブリット開催について説明
・第75回東京大会について

平川 東京大会実行委員長

開催日: 令和5年10月19日(木)・20日(金)

東京国際フォーラムにて開催予定

(4) 要望活動について 荒川 対策部長

○令和5年度文教施策並びに予算に関する要望事項について

7月11日に「小学校教育の充実に関する文教施策並びに予算」について、文部科学省、財務省、総務省に対する要望活動を行い、文部科学省初等中等教育局長へは直接手渡すことができた。主な要望事項は、以下のとおりである。(詳細は全連小HP参照)

①我が国の義務教育の質を高めるための教育費の増額措置。②学校教育への信頼を一層高めるための教職員の確保及び資質向上を図る施策。③子どもと向き合う時間を確保するための教員定数改善や人的措置、諸条件の整備。④「GIGAスクール構想」の推進のための一層の整備。⑤震災復興に関わる人的配置の充実及び施設・設備・教材等の迅速な整備。⑥新型コロナウイルス感染症防止対策のための一層の整備。⑦豊かな心や健やかな体の育成に向けた教育を充実させるための施策。⑧学校の教育活動が円滑に行われるようにするための施設・設備・教材等の整備・拡充を図る施策。⑨学校、家庭、地域が一体となって教育を推進するための家庭や地域の教育力充実に向けた施策。⑩教育の機会均等を保障するためのへき地・小規模校の教育をさらに充実させる施策。⑪全国の教員が安心して教育に専念できるようにするための年金制度や教員の処遇の維持・改善を図る施策。

○10月13日中央教育審議会『「令和の日本型学校教育」を担う教師の在り方特別部会」への意見書提出について

主な内容は以下のとおりである。(全連小HPに掲載)

①多様な専門性を有する質の高い教師の養成について(・高等学校段階からの養成について・特別支援教育充実に資する学校現場体験の充実及び「介護等の体験」の活用の早期実現・特別免許状に関する運用の見直し) ②優れた人材を確保できるような教員採用等の在り方(・「教師不足」の現状への対応・教員採用選考試験の実施スケジュールの在り方・奨学金制度の在り方について) ③教師を支える環境整備(・学校における働き方改革の一層の推進について・校長等の管理職の育成及び求められる資質・能力の明確化について・「令和の日本型学校教育」を担う新たな教師の学びの姿(教員研修)について)



(5) 全連小75周年記念事業について

横溝 広報部長

全連小75周年を記念して記念誌の編集を行っている。25年ぶりに発行する。新たな時代の小学校教育の内容を盛り込んだものである。全国の小学校の校長室に学校の備え付け図書として購入を検討していただきたい。

(6) 震災等災害被災県より

○被災3県小学校長会長との合同連絡会報告

荒川 対策部長

7月11日に被災3県小学校長会長との合同連絡会を行った。震災を風化させない取組を継続させていくことなどが確認された。

○岩手県被災地区の現状と課題について

紺野 岩手県会長ほか

震災を起因とする新たな課題もあり、被災地区の学校の要望事項をまとめている。

被災した沿岸部の学校では、人口流出に加え、児童数の減少も見られる。スクールカウンセラーや教員の減少など、人的資源の不足が大きな課題となっている。補助金の打ち切りによるスクールバスの廃止などの報告もされている。心身の健康観察において、要サポート児童が沿岸部では内陸部よりも多く、震災直後の水準にまで上昇している。

5 情報交換 司会 平川 副会長

○テーマ「校長の研修について」

○各グループからの報告(14グループで協議)

<研修履歴の作成について>

- ・見通しが立っていない状況である。
- ・人事評価制度とのリンクについて検討が必要。

<研修の必要性について>

- ・誌上開催ではなく参集型で実施したい。
- ・対話等を通じて互いの実情を率直に話すことの大切さが求められる。

<研修の在り方>

- ・新任校長には退職した校長から心構えを伝授してもらいたい。
- ・管理職の人材不足が切実であった。
- ・ミドルリーダーの育成についての悩みが大きい。

<異なる校種との交流>

- ・ニーズの把握が必要であり、一方的な話でなく参加型などの工夫をする。
- ・プライベートな時間の大切さや胸襟を開いた時間の場を設置したい。

6 連絡・その他

○広報部より

横溝 広報部長

定期的に広報誌を発刊している。「小学校時報」では全国の様子など多彩な記事が掲載されているので引き続き購読をお願いしたい。

7 閉会のことば

平川 副会長

全国連合小学校長会

七十五周年記念誌 発刊のご案内

全連小創立75周年を記念して、これまでの歩み(とくに50周年以降に焦点をあて)を回顧するとともに、新たな時代の小学校教育への示唆に富む内容を折り込んだ「全国連合小学校長会 七十五周年記念誌」を刊行します。学校の備え付け図書として、是非ご購入ください。

<体裁・価格>

申込期間：令和4年11月～令和5年5月

価格：3,000円

刊行：令和6年3月

仕様：B5版 400頁(予定)上製箱入り

分類：教育研究図書・学校経営参考図書

編集：全国連合小学校長会

七十五周年記念誌編集委員会